

すこやか

学校教育目標

すなおな子 心やさしい子 やる気のある子 考える子

学校だよりは 学校ホームページでもご覧いただけます

学校評価、ありがとうございました

校長 片山 純子

学校運営に関する評価等を書面にてご報告いたします。

○学校教育目標「すこやか」な子どもの育成を目指して

4つの目標を、育成すべき3つの資質・能力（*学びを人生に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養 *未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成 *生きて働く「知識・技能」の習得）に結び付け、目指す子ども像を具体的に示し、すべての教育活動は、学校教育目標につながっていることを意識してきました。

学校教育目標の具現化に向けた教育活動が行われているか、子ども達の姿は目標に近づいているか等評価や振り返りを今後も丁寧に行っていきます。社会の変化や子どもの成長に応じて、目指す子ども像や目標の見直しも行っていく必要があると考えています。

○一人一人を大切に、多様性を受け止める支援教育の充実

本校で最も大切にしている運営方針の一つです。「誰ひとり取り残さない」という理念を共有し、すべての児童が安心して過ごせる温かな学級・環境づくりや「わかった、できた」と実感できる授業づくりを推進してきました。児童支援体制の見直しを行い、すべての教職員が連携、協力し児童理解を深め、適切な支援を行えるようにしました。

たった一人の児童の支援についても、全教職員でそれに向き合い、解決していこうとする意識や姿勢を今後も大切にしていきたいと思えます。

○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

授業研究や研修による教職員の授業力と指導力の向上を目指しました。川崎市教育委員会研究推進校（特別支援教育）の研究に2年間取り組み、特別支援教育の観点を取り入れ、各教科等で、主体的・対話的なかかわり、深い学びを目指した授業づくりを行いました。特別支援学級では、5学級のクラス編成と教育課程の作成を行った昨年度からの体制を継続し、関わりを大切にされた授業や共同学習の在り方について研究を進めました。様々な学びが保証され、授業に前向きに取り組む児童が増え、「できた!」という達成感を感じている姿が多く見られるようになりました。また、教職員の児童理解が進み、実態を踏まえた支援や指導の在り方を考えられるようになり授業改善につながりました。今後も、育成すべき資質・能力の柱をふまえての授業の見直し、児童の反応や成長を丁寧に見取り、児童が主体の授業づくりを行っていきたくと思えます。

*「これからの川崎市における特別支援学級の在り方」についての研究が認められ、令和5年度『川崎市教職員組織表彰』を受賞しました。

○保護者・地域との連携

開かれた学校を目指し、学校や学年の経営方針や児童の様子が保護者や地域に理解されるように努めました。教育活動の中では、多くのゲストティーチャーの方にご協力いただきました。また様々な学習の取り組みを温かく見守っていただき感謝申し上げます。積極的な情報発信に努め、これからも保護者・地域の皆様に愛される学校を目指していきたいと思えます。

アンケート結果より

① 「子どもは学校でたのしく過ごしている」

児童の「そう思う」「大体そう思う」の回答が95%でした。「細かく子どもを見ていただいて気持ちもくんでいただいて安心しています。」「学校生活はとても楽しく過ごさせているので今以上により良いものになればと思っています。」「先生方が楽しんで過ごさせていけば、自然と学校全体も良くなると思います」等の温かいメッセージもいただきました。しかし5%の「楽しくない。」という児童の思いを受け止め、すべての子ども達にとって、楽しく明日が待たれる学校生活となるように努めていくことが大切であると考えています。

② 「子どもは自分のよさに気づいている」

③ 「子どもは友だちのよさを認め、仲良く活動している」

②の質問については、児童の「そう思う」「大体そう思う」が77%と最も低い割合となりました。各教科の学習や行事等様々な活動を通して、努力したことや達成したことを認め合い、自己肯定感が高められるような取り組みを行ってきました。自分の良さや友達の良さを知り、次の活動への意欲につながれなかったり良いところに気づけなかったりして、自己肯定感が低い子もいます。また学年が進むにつれ、増えていく傾向もみられます。自己肯定感を高めていくために、目標を明らかにして達成感を得られる課題や活動内容を工夫した教育を考えていくこと、一人一人とも関りを大切にしていこうと取り組んでいきたいと思えます。また、個に応じた支援も引き続き丁寧に行っていきます。

④ 「子どもは何事もあきらめずに最後まで取り組んでいる」

⑤ 「子どもは自ら課題を見付け、学習に取り組んでいる」

⑤については、「そう思う」「だいたいそう思う」の回答では、児童85%、保護者70%、教職員90%でした。総合的な学習の時間では、自ら課題を見つけ課題を解決していくことができるような探究課題を大切に単位を計画しました。実態に即した学習活動によって、主体的に学ぶ力をつけることができました。また、結果だけではなく、児童が考え、協働して学ぶ過程を大切に評価しています。様々な教科等の中で、子どもが主体となって学ぶ授業づくりを行っていきたくと思えます。

⑥ 「学校は子ども達が安心して過ごすことができるように環境を整えたり、安全に配慮したりしている」

「みんなの約束」について教職員で見直しを行い、共通理解を図りながら、学校生活の約束を守って過ごすことができるように指導や支援を行いました。校地や校内に危険箇所がないかの点検も行い、不具合が認められた際には、迅速に対応してきました。計画的な避難訓練も実施しています。防犯対策については見直しを行い、今後も充実させていくようにします。

⑦ 「学校は学校便りや学年便り、ホームページ、ミマモルメ等で保護者や地域に学校の情報を知らせようとしている」

毎月のお便りでのお知らせについては、もう少し早めに出してほしいとの声が寄せられました。HPの更新や工夫については課題があると感じています。適切なタイミングでのお知らせ等により学校の様子を伝えていくように努めていく。

◎アンケート結果は、グラフ化して学校HPに掲載いたします。合わせてご覧ください。